

平成29年度学校自己評価システムシート (県立志木高等学校)

目指す学校像	志木高スピリット (立志・言志・続志) の下、高い志を持ち、自分の夢を実現できる学校
--------	--

重点目標	1 学習習慣の確立と授業改善により、主体的な学びを推進し、学力を向上させる。 2 志木高スピリットを醸成させ、学校生活に誇りと自信を持たせる。 3 安心・安全で、地域とともに歩む、魅力ある高校づくりを推進する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	9名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	12名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標					29年度評価(2月1日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	<p><現状> 授業互見を年間指導計画に位置付けるなど、授業改善の意識が醸成されているが、アンケート結果を基にした改善が十分でない。</p> <p><課題> 生徒が自ら進んで学習に臨む意欲が不足しており、生徒の学力の向上を図るためには、学習習慣の確立と、生徒の実態に即した授業の工夫・改善が必要である。</p>	家庭学習時間を確保し、生徒の主体的な学びを推進し、生徒の学力を向上させる。	①生徒アンケート結果の分析等により、適量の課題を設定し、家庭学習時間を増やす。 ②各教科会を中心に、相互の授業見学や協調学習等の教員研修会を行い、学び続ける教員集団を形成する。 ③朝自習や補講・補習を充実させる。 ④授業アンケート結果を当該教員にフィードバックし、PDCAサイクルを回して授業改善を行う。	①家庭学習の時間が増えたか。 ②教員の授業改善につながる授業互見や教科研修が定期的に行われたか。 ③朝自習や補講・補習の参加者は増加したか。 ④生徒・保護者アンケートにおける授業評価が向上したか。	各教科ごとに適量の課題を検討し、家庭学習時間を増やした。また、センター試験希望者向けの数学朝補習等、補習等の数が増え内容も充実した。年3回の授業公開週間では、相互に授業を見あうことが定着した。教員研修会ではテーマを設けて授業改善に取組むことにより、学校全体で授業改善に取り組む意識が醸成された。	A	生徒の主体的な学びを推進するためには、学習習慣の確立にむけた更なる取組が必要である。学習習慣の確立に向けて手帳等を活用した指導を導入することにより、生徒の自己管理能力を育成する。授業アンケート結果の分析を工夫し、当該教員のPDCAサイクルによる授業改善を継続するとともに、教科としての授業改善や教員研修に活かす。	学校関係者からの意見・要望・評価等
2	<p><現状> 四年制大学への進学者が40%程度いるが、指定校推薦などに安易に頼る生徒も多く、目的意識を持って高校生活を送れていない。部活動加入率も高くない。</p> <p><課題> 生徒が自己有用感を持ち、充実した学校生活を送るために、学校行事の充実と、少し背伸びすれば届く進路を実現させる進路指導の充実が必要である。</p>	生徒に高い志を持たせ、進路意識を高めるとともに、部活動や学校行事にも積極的に参加させて、学校への帰属意識を高める。	①進路指導室を活用し、系統的な進路指導により生徒の進路意識を高める。 ②学校行事や体験活動・ボランティア活動等への積極的な参加を促し、生徒に自己有用感を持たせる。 ③生徒会の活用や部活動顧問の協力により、生徒に部活動の意義を理解させ積極的に参加するよう指導する。	①進路決定率100%。大学進学者50%、うちセンター試験受験者が増加したか。 ②学校行事や体験活動・ボランティア活動等へ積極的に参加する生徒が増えたか。 ③部活動加入率・定着率が上昇したか。	進路指導室の活用が進み、系統的な進路指導をおこなった。長期休業中の進路補習への参加者が増加するなど、生徒の進路意識が高まった。進路決定率88.9%。大学進学者27.7%、センター試験受験者は昨年度に比べて5人増加した。(2月1日現在)ボランティア活動に積極的に参加する生徒が増加し、地域からの協力要請が増加した。部活動の加入率は64.3%から71.5%に上昇した。	B	系統的な進路指導について、各段階での指導内容を検証し、志木高スピリットと関連づけることにより、生徒の志を育てることが課題である。学校への帰属意識を高めるためには、自己有用感を持たせる取り組みが引き続き必要である。また、生徒会の行事への係わりを工夫し、生徒会の活動を魅力あるものにしていくことが課題である。	・学校評価懇話会に参加している生徒に「自分たちも学校づくりの主体である」という意識の高まりを感じた。 ・進路決定率、大学進学率を今後どう評価するかが課題ではないか。今年度は目標設定率が若干高かったのではないか。 ・達成度に異論はないが、Aに近いBと評価している。 ・進路決定率や部活動加入率等の数値で評価できない指導への目配りを期待している。
3	<p><現状> 注意喚起や見守り指導により、目に見える安心・安全は確保できているが、SNSによるトラブルや、生徒同士の人間関係など目に見えないトラブルへの指導が不十分である。</p> <p><課題> 生徒自身に自主自律を求めるとともに、学校内外での危機管理能力を育成し、教育相談体制を充実させる必要がある。</p>	安心・安全な学校づくりのために、事故防止と良好な人間関係づくりを支援する。	①教員、生徒、保護者が一つとなって交通安全指導を計画的に実施する。 ②いじめ防止対策と併せ、SNSの利用にかかる情報モラル教育を充実させる。 ③教育相談を充実させ、特別な配慮を必要とする生徒への支援と合理的配慮を提供する。 ④身なり・言葉遣い・時間厳守等を自ら点検し改善できるよう指導する。	①事故件数や交通マナーに対する苦情が減少したか。 ②いじめやSNS利用によるトラブルが無くなったか。 ③特別支援教育コーディネーターと連携し、教育相談や合理的配慮が提供できたか。 ④生徒指導の対象者は減少したか。	交通安全校外指導等を実施し、交通マナーに対する苦情が減少した。SNS利用によるトラブルを防ぐため、携帯・スマホ安全教室を実施した。特別支援教育委員会を中心に個別の指導プランを作成し、必要とする生徒に合理的配慮を提供することができた。粘り強い指導により、整容指導の成果がみられた。また、遅刻指導対象者が減少した。	B	生徒の交通事故は依然発生しており、交通安全指導を計画的に実施し、危機管理能力を育成することが課題である。特別な配慮を必要とする生徒の支援を学校教育全体でおこなえるよう、個別の指導プランの共有と活用を進めることが課題である。外部機関との連携により、職員研修を実施する。	・「安心・安全な学校づくり」という全体を包括する視点が意識されていることは大事なことだと思うが、内容が多岐にわたるので、もう少し細分化して検討すると良いのではないか。 ・いじめやSNS利用によるトラブルは絶えず指導していくことが必要である。 ・交通安全指導については、今後も継続的な指導が望まれる。 ・取組内容は達成度Aでも妥当と考えるが、学校の評価を尊重する。
	<p><現状> 地域に根差した学校であり、地域の行事に部活動や生徒会が積極的に参加している。</p> <p><課題> 本校のファンを増やしていくためには、志木高の頑張りを一層積極的に発信する必要がある。</p>	中学生への働きかけと地域への情報発信を拡充する。	①体験授業・学校説明会・部活動交流などに教職員全体で取り組む。 ②地域行事などへの参加を推進する。 ③学校ホームページを充実させ、志木高校の魅力とタイムリーな情報を発信する。 ④入学者選抜基準を検討する。	①学校説明会等への参加者数は増加したか。 ②地域行事などに参加する生徒数が増えたか。 ③ホームページ更新回数、アクセス数が増えたか。 ④本校の志願者の実情に即した選抜基準になったか。	学力検査に特化した説明会を実施し、説明会等への参加者が増加した。学校ホームページをリニューアルし、志木高校の魅力を全教職員で発信する体制が整った。第3次選抜を廃止し、実態にあった選抜基準とした。	A	教職員全体で生徒募集をおこなうためには、学校説明会等の分担を計画的におこない、負担軽減もはかることが課題である。ホームページを活用し、志木高校の魅力を発信するとともに、地域への情報発信についてHP以外の方法を工夫することが課題である。	・生徒が主体になる場面が増えると更に良いと思う。 ・ホームページのリニューアルを達成し、更新回数、アクセス回数が増加しており達成度Aの評価が妥当だと思う。今後はアクセスを待つだけでなく、積極的に配信していくことを検討すると良い。